

- 1 題材 A表現(1)「発掘！—なぞの遺跡を探せ—」
- 2 目標
- 材料や場所などに進んでかかわり、その特徴に気付きながら造形活動を楽しもうとする。(関心・意欲・態度)
 - 材料や場所の特徴をもとに、発想を広げたり構想を練ったりする。(発想や構想の能力)
 - 表したいものに沿って、材料や表し方を工夫して表現する。(創造的な技能)
 - 友達や自分の活動を比較することによって、表し方のよさを感じとったり、味わったりする。(鑑賞の能力)

3 題材の学習について

(1) 題材観

高学年のA表現(1)は、もてる力を思いのままに働かせ、周りの状況に進んでかかわり、形や色、ものや友人などと相互作用的な関係を作り出しながら、造形活動を広げていくことをねらいとしている。

本題材は、多くの材料や道具、場所をもとに自由に思いや願いをふくらませ、思い通りに材料や場所、人などかかわりながら造形活動を進める題材である。これまで身に付けてきた体験活動や表現方法を生かし、材料や場所、人などのかかわりをもとに発想し、自分の思い付いたこと試したり、試行錯誤を繰り返したりしながら構想を練り上げることで造形活動を広げることをねらいとしている。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、図画工作科の学習が好きで、意欲的な取り組みを見せる児童が多い。一方で、造形活動に十分満足感をもてなかったり、自分の作りあげた作品に対して自信がもてなかったりする児童もいる。一学期の図画工作科の授業における観察からは、自分のアイデアを何度も練り上げないまま、参考作品や友達の作品を安易にまねる様子も見られたことから、自分の発想や構想を十分に生かすことができているととらえた。

そこで、本学級の児童にとって必要な学習体験は、体全体の感覚を働かせながら材料や場所にかかわり、発想や構想を練ることであると考えられるため、本題材を十分に活用していきたい。

(3) 指導観

この題材を通して、児童が自分の造形活動の中で試したり試行錯誤を繰り返したりしながら造形活動を広げていけるようにする。

具体的には、学習の始めに、学び合いによる材料体験の場を設ける。そこでは、十分に材料とかわるようになることで、材料の特徴をつかんだり、材料の加工の仕方を考えたり試したりすることを通して、児童が造形活動を広げていけるようになるためのきっかけづくりをしたいと考える。

また、製作段階においては、前段階での学びや気付きを作品に生かしていけるようにするため、学習の場に試しの場として「材料ベースキャンプ」を設定する。「材料ベースキャンプ」には、様々な材料や道具を集めるとともに、簡単な作業スペースを設け、材料などと十分にかかわったり友達と交流したりできるようにする。また、材料や道具をその場で選んだり試したりするばかりでなく、自分の活動場所に運び出せるようにしておく。このように、児童一人一人が造形活動の流れの中で試しの場面をつくりやすくなるように配慮したい。造形活動が滞っていたり作品にあまり工夫が見られなかったりする児童への手だてとしては、教師が意図的に材料体験の場で学んだことを生かせるようなかわりをする事によって、試しの場面をつくりだせるようにする。

さらに、学び合いによる材料体験の場で学んだこと、造形活動における自分や友達のよさ、気付きなどを、毎時間学習カードに記入していく。学習カードに記入することによって、その時間の自分の学びを確認すると共に、学習カードの記述内容から、前時の学びを振り返ったり友達の活動のよさを取り入れたりしながら、造形活動を広げていけるようにしたい。また教師も、児童の造形活動中の気付きや学びを学習カードの記述から把握し、適切な支援をすることができるようにしたい。

3 学習計画（5時間扱い）

次	時 活動の流れ	○ 主な活動内容 □ 活動への手だて	評価規準	評価の観点			
				関	発	技	鑑
第1次	第1時 (つかむ)	○ 新聞紙の加工の仕方について考える。 (話し合い活動・グループ活動)	・材料や場所などに進んでかかわり，造形活動を楽しもうとする。 (関・鑑)	○			
		○ 材料としての可能性を試しながら，新聞紙を加工してみる。					
第2次	第2・3時 (表す) (本時)	□ 造形への関心・意欲を高めるための雰囲気作りや語りかけ，参考作品の提示の仕方などを工夫する。	・材料や場所の特徴に気付き，発想したり構想したりすることができる。 ・表したいものにそって，材料や表し方を工夫して表現することができる。		◎		○
		□ 材料や場所など，造形活動の対象となるものとの出会いの場を工夫する。					
第3次	第4時 (表す)	○ 友達との表現の違いに気付き，それを自分の作品に取り入れたり，新たな材料や表現方法を試したりする。	・友達の見せ合い，触れ合うことで，それぞれの表し方のよさや工夫に気付く。 ○ 発想や構想の移り変わりを振り返り学習のまとめ。。		○	◎	
		□ 友達との教え合いや協力など交流活動を含めた，活動形態を工夫する。					
第3次	第5時 (振り返る)	○ お互いの作品を見せ合い，触れ合うことで，それぞれの表し方のよさや工夫に気付く。	・友達の表し方のよさを感じ取ることができる。 (鑑)				○
		○ 発想や構想の移り変わりを振り返り学習のまとめ。。					
		□ 学習カードの活用や発表の際の意図的な指名などを工夫する。					

4 本時の学習

(1) 目標

- 材料や場所の特徴に気付き、発想したり構想したりしながら造形活動をする。

- (2) 準備・資料 新聞紙（主材料）・木の枝・ナイロンひも・ラップ芯・針金等
 一輪車・スコップ・移植ごて・バケツ・はさみ・ペンチ等
 参考資料・学習カード

(3) 展開

学 習 活 動 ・ 内 容	教師の指導及び支援，評価 (◎ は評価の内容 ☆は評価の方法)
<p>1 本時の目標・活動内容を知る。</p> <div data-bbox="237 797 679 931" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 材料や場所などの特徴を見つけ、それを生かして楽しい造形活動をしよう。 </div> <p>2 材料や場所などを選び、それをもとに学習活動を行う。</p> <div data-bbox="213 1305 683 1776" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> </div> <p style="text-align: center;">【学習活動の場 見取り図】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の活動目標を示しながら，活動全体の見通しをもたせる。 ・ 前時の学習を振り返り，主材料としての新聞紙のよさや，校庭の様々な場所の特徴などを考えるよう投げかける。 <div data-bbox="778 981 1198 1012" style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;"> 【教師の具体的な言葉による支援】 </div> <div data-bbox="751 1037 1254 1155" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「こんな場所にこんなおもしろいものが埋まっているよ。」 「こんなふうに囲んだら，不思議な場所になったよ。」というような空間を発見しよう。</p> </div> <div data-bbox="1297 1088 1401 1200" style="float: right; text-align: center;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全や時間やなどの基本的な約束事を掲示し教師と共に確認しながら，安全や時間に対する意識付けを図る。 ・ 様々な材料や道具をまとめて「材料ベースキャンプ」に準備し，造形活動に必要な技能や材料を自由に選んだり試したりすることができるようにする。 ・ 児童一人一人が自分の活動の流れの中に試しの場面を作っていけるように，試したい材料や道具を好きな場所に運び出せるよう配慮する。 <div data-bbox="759 1760 1353 2018" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>◎ 材料や場所の特徴に気付き，発想したり構想したりすることができたか。 (発想・構想)</p> <p>☆ 観察，聞き取り，デジタルカメラの記録など</p> </div>

【予想される児童の造形活動】

- ・ 材料の特徴に気付き選ぶ。
- ・ 場所の特徴に気付き選ぶ。
- ・ 友達の活動を観察する。
- ・ 友達の作品とつなげる。
- ・ 友達といっしょに製作する。
- ・ 材料や道具を試す。
- ・ 材料同士を組み合わせる。
- ・ 材料と場所を組み合わせる。
- ・ 友達と相談する。
- ・ 先生にアドバイスを求める。
- ・ 新しい技法を試す。

【期待する児童の反応】

「この材料はこんなふうに使えるかもしれない。」
「この組み合わせはおもしろくなるんじゃないかな。」



「こうしたらもっと楽しくなる。」
「この方法なら違ったおもしろさが出てくる。」
「〇さんのやり方は、この部分で使えるね。」



3 学習のまとめをし、後片付けをする。

(努力を要する状況の児童への手だて)

- ・ 児童から活動状況について話を聞いたり、何をやりたいのか話し合ったりする中で、材料のよさや活動の方向性について個別に助言する。
- ・ 児童の活動状況をつかみ、児童が自ら試しの場面をつくりだせるように適切な言葉かけや提案をしていく。
- ・ 思い通りに活動を進めている児童に対しては、賞賛の言葉かけをするとともに、更に活動が広がるように、別の材料を提示したり、新しい表し方を提案したりする。

【教師の具体的な言葉による支援】

「その考えを応用するともっと活動が広がるね。」
「実験的に試してみようか。」



㊦ 表したいものにそって、材料や表し方を工夫して表現することができたか。(技能)
☆ 観察、作品、デジタルカメラの記録など

(努力を要する状況の児童への手だて)

- ・ 友達の活動を参考にするように促したり、試しの場で一緒に材料を選んだりしながら、個別に助言や提案をしていく。
- ・ 自分の表現に生かせるように、友達の活動を見てきてもよいことを伝える。
- ・ 友達のがんばりで気が付いたことを発表し、次時の活動への意欲付けをしたい。
- ・ 全員協力して短時間でていねいに後片付けができるよう指示する。